



# 台湾における修復的実践

---

- ・ミンチェン・リン
- ・2024
- ・バース大学（英国）博士号取得
- ・穎学中学校教諭

# 起源

2014年台北大学犯罪学研究所がオリーブセンターを設立し、学校のでいじめ問題を扱う「修復的司法」を実践

教育部の資金援助を受けて台湾全土の全ての学校（小中学校、大学、各種補習校含む）で「修復的実践（RJ）」を導入

# 修復的実践が対処できる問題

言葉によるいじめ  
(あだ名, からかい, デマや噂)

関係性のいじめ  
(排除する, 孤立させる, グループから外す)

学生同士の  
誤解

遊びの度を超えた  
衝突

クラス内でみんなに嫌われている人

親と教師の  
衝突

# 修復的実践 ミーティングの 実施プロセス

事前会議

修復的対話（対話サークル、サポートサークル、カンファレンス）

事後のフォローアップ

# 修復的対話の ポイント

事実

影響

未来

# 修復的な問いかけ：5つの標準的な質問

	加害者	被害者
事実	何が起こりましたか？	出来事が起こったとき、どんな反応をしましたか？
影響 インパクト	そのとき何を考えていましたか？	そのときはどんな感覚でしたか？
	事件を振り返って、どう思いましたか？	何が一番しんどいと感じますか？
	あなたの行動は誰に影響を与えていると思いますか？ その人たちはどんな影響を受けますか？	(どのような影響を受けましたか？) 事件を知ったとき、あなたの家族や友人はどのように反応しましたか？
未来	状況を良くするために何をしたらいいと思いますか？	どうしたらもっと状況が良くなりますか？ 相手にしてほしいことはありますか？



# 事実の尋ね方

"あなたの理解では、衝突はどうして起こりましたか?"

"出来事のいきさつについて話してみてください。"

"この出来事についてあなたが知っていることはなんですか?"

Q: (会場の学生に) 他に質問はありますか?

事実についてあまり詳しく聞く必要はなく、  
大まかな理解でよい。

😊 RJは事実の不一致を許容する

# 影響(インパクト)の尋ね方

「その時、何を考え、何を感じたか？そして今は？」

「この出来事はあなたにどのような影響を与えましたか？(ヒント：生活の各方面、学校に来るのが嫌だと感じますか？クラスに入るときに不快に感じますか？気まずい？心配で眠れないことがありますか？」

"この出来事は周りの人（両親、同級生、友達）からどう思われていますか？またはどう感じていますか？"

"これ"はあなたにどんなプレッシャーを与えていますか？しんどさ？心地悪さ？"

Q：（会場の学生に）他の質問はありますか

→ キーパーは、（対話前と対話中に）クライアントが自分の感情を表現する方法を学ぶのを助けるべきである。





# 未来についての質問

“どんな未来を期待しますか？” “将来、何があったらもっといいと思いますか？”

“物事をより良くするために、あなた（あるいは相手）は何をする必要があると思いますか？”

“相手がどう振る舞ったら、自分がかもっと快適に過ごせそうですか？相手に要求していいです。相手に何をしてほしいですか？”

相手から「こうしてほしい」（例：あだ名で呼ばない、攻撃的な言葉、自ら相手の意図を確認する、相手が心地悪いと感じたことを受け入れ、それによって自分も適切ところで止める）と言われたら、どう思いますか？それは受け入れられるだろうか？

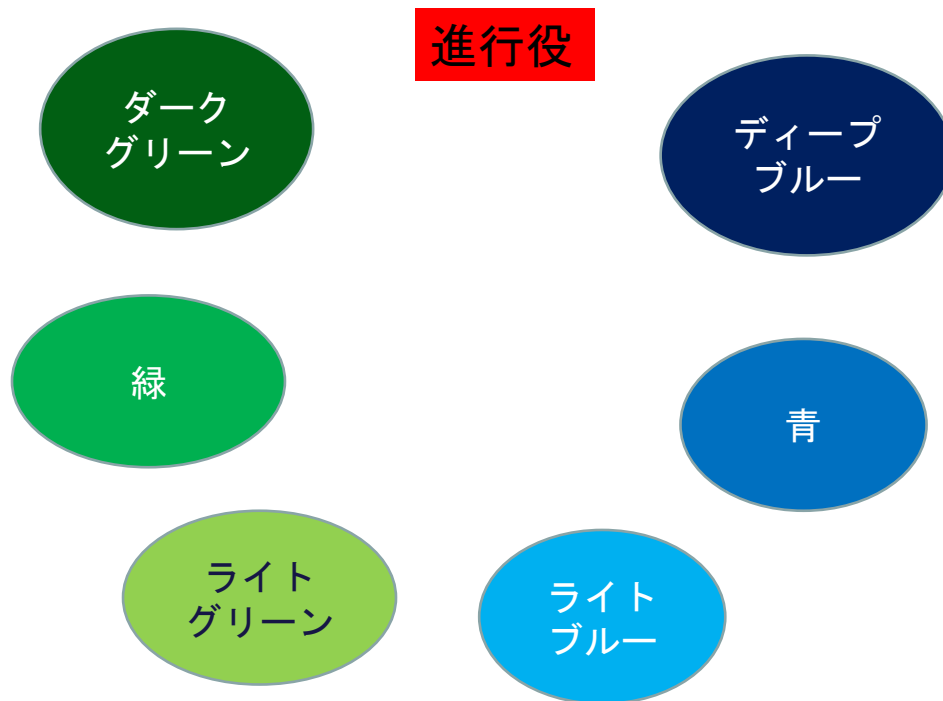
Q：（会場の学生に）他に質問はありますか？

→会議の前にキーパーは、お互いが納得できる約束を構築しておいてもよい。

# 複数人での修復的対話 座席をどう配置するか？

青緑和解(台湾の2つの政党の色)で説明

効果的な意見を出すためのパワー配置



出典 : Lin Min Cheng, 2016

# 各ステップの目的

- |   |                    |   |
|---|--------------------|---|
| 1 | ウォームアップ            | 参加者が現場での安全性を築けるようサポートする<br>会議の目的を述べる                              |
| 2 | <b>事実</b>          | 事実を明確にする  |
|   |                    | イベントのメインピックとサブピックを決める<br>出来事の脈絡・つながりを確認する                         |
| 3 | <b>影響</b><br>インパクト | 感情/気持ちを表現する   |
|   |                    | 互いへの共感、理解、許しを求める。<br>関与者の生活/仕事の違いによる制約を明確にする。                     |
| 4 | <b>未来</b>          | 和解のコンセンサスを<br>求めて   |
|   |                    | 1. 状況を悪化させない      2. 衝突を減らす<br>3. 一歩目の良好関係の構築／帰属意識を築く<br>4. 償いをする |
| 5 | <b>未来</b>          | 交代で話す   |
|   |                    | 参加者の自主性とコミットメントへ配慮する  |

# ウォームアップ

"あなた達の間には過去に不愉快なことがたくさんあったので、今日はこの時間を使って、お互い（および両親、友人、仲間、支援者）と話し合い、相互理解を促進します。

話し合いが終わったらすぐに仲良しになる（あるいは恨みや恥ずかしさの感情を捨てる）とは期待していませんが、少なくとも状況が悪化しないように敵意を減らしてほしいと思っています。この目標でいいでしょうか？

私たちの対話は、攻撃的な言葉を使わない、話を中断させない、話したくなったら手を挙げる、という原則を守って行われなければなりません。

この3原則は受け入れられますか？

（双方が納得できることを確認した上で）対話を始めましょう。

まずは（被害者の名前）に、どのような経緯で.....起こったのかを話してもらいましょう」。

---

# 進行役(キーパー)

継続的な  
自己訓練が必要

あなたがキーパーになれないとしても、修復への道があることを知っておいてほしい

# 注意事項

修復的正義があるからといって、  
報復的正義を放棄すること、または疎かにすることは  
あってはならない。

A group of people are shown from the chest up, clapping their hands. The background is bright and out of focus, suggesting an indoor event or presentation. The clapping is the central focus of the image, with hands in various stages of the clapping motion. The lighting is soft and even, highlighting the texture of the clothing and the movement of the hands.

ご清聴ありがとうございます。

---

ご清聴ありがとうございました！